

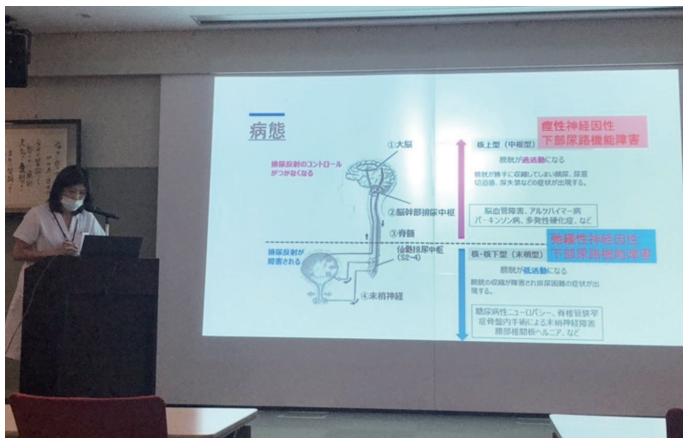
見てね!



薬剤師の活動や参加イベント情報などをお伝えしていきます!

1月の薬剤部ゼミ報告

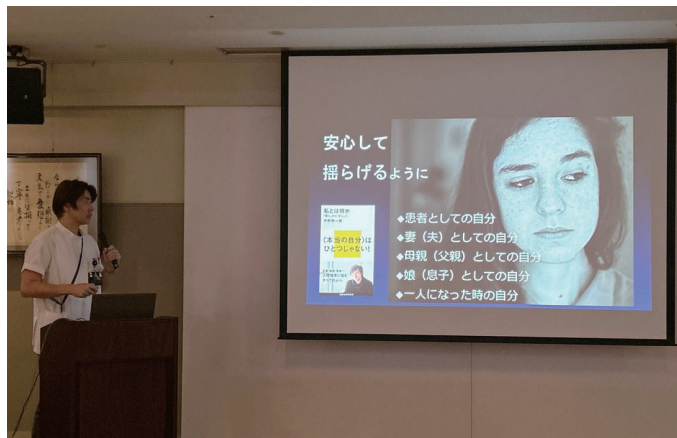
12月の薬剤部ゼミ報告



【神経因性下部尿路機能障害 (NLUTD)】

NLUTDは脳、脊髄、末梢神経を結ぶ経路のいずれかに損傷が生じ信号の送受信が妨害されることで発生します。頻尿、残尿感、尿閉等症状が多様で治療薬の選択に難渋しますが、患者さんの訴えを聞き、残尿量や尿勢の評価をすることが治療薬の選択には重要だということがわかりました。

症例を通して抗コリン薬、β3作動薬、α遮断薬の使い分けについても理解が深まりました。(酒井)



【ChatGPTとの併走法】

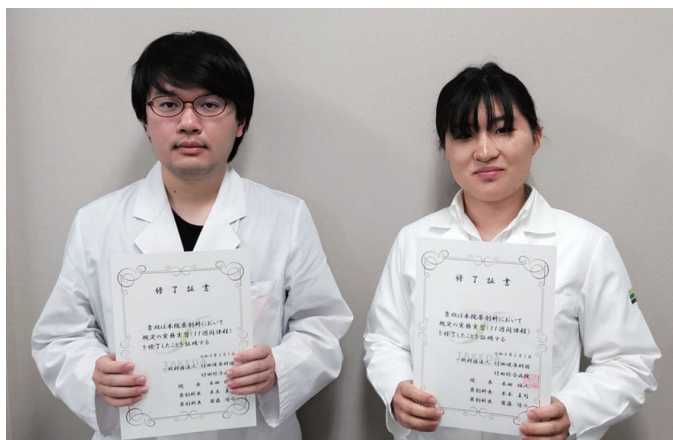
今回、薬剤科ゼミにて「ChatGPTとの併走法」をテーマに発表しました。AIは便利である一方、医療分野ではハルシネーションという大きなリスクを抱えています。そこで本発表では、「作れる」ことよりも「事故らない」ことを優先し、プロンプトを“構造”で設計する重要性を共有しました。

具体的には、情報源・時点・概念の混線という3つの事故要因を整理し、それを防ぐ手段としてモジュール化とゲート(停止条件)という考え方を提示しました。また、PMDA添付文書を基盤とした一次情報重視、不明は不明とする姿勢など、実臨床で再現可能な運用方法も紹介しました。

AIを「なんとなく使う」から「安全に使いこなす」へ。薬剤師だからこそできるAI活用の形を、これからもチームで磨いていきたいと思えます。(木本)



2025年度4期実習生



2025年度第4期実務実習生のお二人、11週間の実習お疲れさまでした。初日のオリエンテーションでは緊張した様子も見られましたが、最終日には薬剤部の一員のように積極的に学ぶ姿が印象的でした。症例検討会では小児川崎病および糖尿病症例について、患者背景を的確に捉えた分かりやすい発表でした。

ご指導いただいた薬剤師の皆様にも感謝申し上げます。大学に戻ってからも今回の学びを活かし、これからの学びを深めていかれることを応援しています。(中村)



2025年竹田総合病院のロングローテーションとショートローテーション



竹田病院に入社して早一年が経とうとしています。
現在は調剤室の業務で主に監査、調剤、検閲を行っています。同じ薬を使っていたとしても用法や用量が全く異なり適応なども変わってくるため注意深く処方せんを確認していく必要があります。一人では情報を見逃してしまう可能性もあるため多くの人の目を通すことによって過誤を防ぐようにしているのが薬剤科での業務です。
患者さんの命に直結するためとても責任がある仕事であると同時にやりがいを感じることができる仕事であるため、一人でも多くの患者さんを笑顔にできるようにこれからも頑張っていきたいと思います。(塩川)

外科研修を通じて、周術期における薬物療法の基本的な考え方、出血リスクや術式、患者背景に応じた抗菌薬・抗凝固薬・糖尿病薬の選択や休薬の重要性を理解することができました。

今後は事前準備と情報整理を徹底し、患者一人ひとりに応じた、よりの確な対応につなげていきたいと思っています。(石田)

この1年間、ロングローテーションを通して様々な症例に触れることができました。外来化学療法チームではケモに関する知識だけでなく、継続的な指導を通して患者との信頼関係を築くことの難しさを改めて実感しました。

入院患者に対しては自身のタイミングで面談を行うことができ、面談時間もある程度調節可能ですが、外来では限られた時間の中で必要な情報を的確に把握する力が求められると感じました。

今後も経験を重ねながら患者一人ひとりに寄り添った関わり方ができるよう努めていきたいです。(緑川)

インターンシップ(12月)



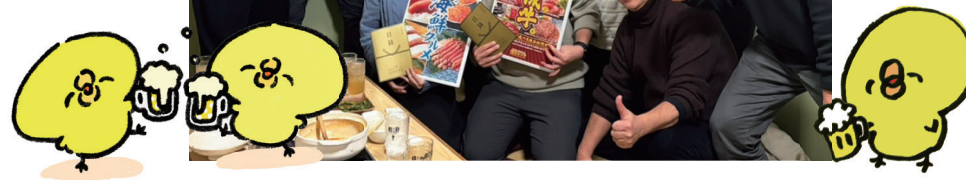
2日目の最後に私が緩和ケアについての概要を説明し、緩和ケアの医師に緩和ケア病棟を紹介してもらいました。
遠くから来て、疲れも溜まってきている中、積極的に緩和ケアや認定に関して質問をしてくれました。
そのまま話を続けていたら、帰りのバスに乗りおくれしてしまうため、中断せざるを得なかったのが残念です。また機会があれば、インターンシップに参加してほしいです。(成田)

12月に、インターンシップを行いました。参加した学生さんからは、当院での患者さんや他職種との関わりについての質問もあり、インターンシップに積極的に取り組んでくださいました。

少しでも当院の魅力が伝わっていたら嬉しいです。

私自身も、院内での薬剤師の役割を改めて考える良い機会となりました。(小田)

忘年会



コロナの影響で薬剤科の忘年会は5年ぶりの開催でした。

じゃんけん大会やAI写真での曲名当てクイズなどのイベントがあり、目玉商品として松坂牛と豪華海鮮がありました。私は松坂牛も海鮮も手に入られませんが、1年間の嫌なことが全て忘れられる楽しい会でした。

忘年会があったおかげで今年1年間も笑顔で業務を行っていけそうです。(成田)

今回の忘年会では司会を担当しました。最初は人前で話すことに緊張しましたが、皆さまが温かく盛り上げてくださったおかげで、大きなトラブルもなく進行することができました。

齋藤科長考案の曲名AIイラストクイズは大変盛り上がり、参加者全員が楽しんでいる様子が印象的でした。問題が出るたびに笑い声や歓声上がり、会場の雰囲気が一気に明るくなりました。

司会としても皆さまの反応を見ながら場を盛り上げることができ、楽しく進行することができました。(石田)

■ メディカルオープンスクール



メディカルオープンスクールでは、高校生を対象に各部署で仕事紹介を行いました。

薬剤部では、薬の調剤だけでなく、患者さんの状態や副作用を確認しながら医療チームの一員として治療を支えている薬剤師の役割について説明しました。また、模擬症例を用いた吸入指導の体験も行い、相手にわかりやすく説明することの難しさを実感している様子が見られました。

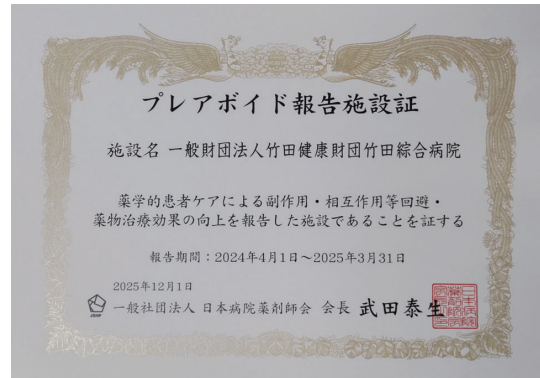
積極的に質問する学生の姿もあり、薬剤師の仕事や医療への関心を深めていただく機会となりました。(小林)

■ プレアボイド認定

プレアボイドとは、Prevent and avoid the adverse drug reaction(薬による有害事象を防止・回避する)という言葉に基づいた造語です。薬剤師による薬学的ケアの実践により患者の不利益(副作用、相互作用、治療効果不十分など)を回避あるいは軽減した事例をプレアボイドとして日本病院薬剤師会に報告しています。

薬剤師の業務は、調剤・服薬指導だけでなく、薬物治療全体に関与するようになり、薬剤師の職能として処方提案・支援も求められている中で、当院も患者の薬物治療への関わりを継続的に報告することで、昨年度もプレアボイド報告施設としての認定を受けることができました。

報告された内容の一部は、全国の薬剤師の日常業務におけるリスク回避・質向上に役立つよう公表されています。今年度も薬剤師一人ひとりが実践できた患者ケアを報告していきます。(齋藤(隆))



■ まちの保健室



病院で診察してもらう程でもなく薬局に行って相談する程でもない。でも、もやもやして気になることありませんか？

若者や現役世代の方々であればスマホを使って上手く調べることが出来ます。(AIでも誤った情報を教えてくれることはありますが…)年配の方には難しい作業です。

そんな小さな悩み事の解決のお手伝いが出来ればと「まちの保健室」に参加してきました。

小さな困り事を相談してもらい、帰り際に「ありがとう」と言ってもらえると、とても温かい気持ちになります。薬剤師になって良かったなと思える事の1つなのです。(武石)

■ メディカルオープンスクール



自分個人の評価というより化学療法チームの業績だと思います。化学療法チームの仲間に感謝です。(齋藤(浩))